

令和2年度 第2回「生徒による授業アンケート」(3学年)の集計結果等について(報告)

本校の教育活動につきましては、日頃ご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、このたび「生徒による授業アンケート」を実施し、貴重なデータを得ることができました。その集計結果を受け、各教科で分析するとともに授業改善への手立てを検討し、研究授業を実施するなど授業の質を今まで以上に高める取組を進めています。

つきましては、各教科における集計分析結果及び授業改善への取組の概要をご覧ください、ご質問、ご意見等、お気づきの点がありましたら、ご連絡くださるようお願いいたします。

〔問合せ先 副校長 (046)241-8001〕

1 アンケートの実施日
令和2年12月25日(金)

2 各教科の集計分析・授業改善(概略)

国語	集計分析	現代文Bについては、全体を通して否定的回答の割合が増加したが、その中でも「学習の見通しと振り返りの機会」の項目での否定的回答が大きく増加していた。 古典Bでは1学期と比べ、「取り組みやすい」「学習の見通し」「考えをまとめる」の各項目で肯定的回答の割合が増加した。「予習・復習をしている」の項目について、全体の肯定・否定の割合に変化は見られないが、かなりあてはまると回答した生徒の割合が増加した。 古典講読では、「身についたことを実感できた」の項目で肯定的回答の割合が増加し、授業改善の成果が見えた。
	授業改善	現代文Bについては、1学期と同様にスポーツ科・理系クラスでは概ね肯定的回答をした生徒が多数だった。文系クラスでは、クラスの肯定的回答率・否定的回答率のばらつきが大きかった1学期と比較し、差を埋めることができた。「学習中の振り返りの機会」として、各単元でのまとめなどを実施していく。 古典Bでは1学期の分析を踏まえ、「予習・復習」に意味があることを実感できる授業改善に取り組みたい。 古典講読では引き続き、生徒の望むよりよい授業のあり方を求め、工夫を重ねていきたい。
地歴・公民	集計分析	日本史Bでは、「予習・復習をしている」以外、肯定的回答率が80%を超えた。特に「取り組みやすく理解度に合わせた授業」は、肯定的回答率が90%を超えたので、生徒のニーズに合わせた授業を行うことが出来たと思う。 地理Bと日本史Aでは概ね肯定的な回答であったが、「予習・復習をしている」の項目で約半数の生徒が否定的回答をしている。1学期と比較し大きな変化は見られなかったため、生徒自らが学ぼうとする工夫をしていく必要がある。 発展世界史では「対話的な学び」に関する項目で1学期と比較し肯定的回答率が10%以上増加しており、生徒主体の授業改善が進められていると考える。 発展日本史では、ほとんどの項目で肯定的回答率が約60%となっており、来年度は授業全体を見つめ直す必要がある。 政治経済では、ほとんどの項目で75%を超えていたが、「予習・復習をしている」の項目で60%を下回ったので、今後改善する必要がある。
	授業改善	日本史Bは、生徒が自主的に予習・復習を行うよう、関心を持てる授業を行えるよう工夫する。また、授業中に予習の時間を設けるなど、生徒が学習した内容を身につけられるようにしようと思う。発展世界史についても同様に予習・復習の改善を行う。地理Bと日本史Aでは、授業内容に対する興味・関心を持たせるため生徒が想像しやすい・考えやすい問いを示すようにし、自ら学ぶ意欲や授業に対する参加意欲を高めさせるよう工夫する。
数学	集計分析	数学Ⅲと発展数学は理系の科目で、全体的な肯定的回答率が80%以上となっており、1学期と比較して10%以上あがっていることから、授業改善はできていると考えられる。しかし、学習内容が多く専門性が高いという点から、生徒主体に授業を展開したり、生徒自らが分かっていく意識が低くなりがちなので、その点を引き続き工夫することが課題である。
	授業改善	理解度の差を埋めるための個別指導や課題プリント、生徒が積極的に発言できる雰囲気づくりは改善傾向にあるため、引き続き行っていく。時期的にも授業に対する意欲、自ら分かっていく意識が低くなりがちになるところを、いかに高めていくかの工夫をしていく必要がある。基本が理解できていないと全体的にわからなくなり、意欲低下に直結するため、基本をしっかり固めていくことから行っていきたい。

令和2年度 第2回「生徒による授業アンケート」(3学年)の集計結果等について(報告)

理科	集計分析	物理では、「授業のあり方」や「学習の状況について」、全体的に否定的回答をした生徒が数名増えている。 化学では、可能な限り質疑応答を取り入れようとしたが、「対話的な学び」に関しては肯定的な回答はやや減少した。 化学(スポ科)では、履修人数が少ないこともあり、少数数学習が充実してできていたお陰で、高い肯定的回答率となった。 生物では、「考えをまとめたりする場面」に大きな改善が見られ、他の項目も大きく改善した。
	授業改善	物理では、1学期は意欲的に学ぶ生徒が多かったが、学習内容が難しくなったことや進路に必要ないことなども影響し、学習の定着率がよくなかったように思われる。問題を精選し、演習を繰り返すなど授業方法を工夫していきたい。 化学では、授業中の集中力を高め、意見がしやすい雰囲気をつくり、「対話的な学び」が深まるよう取り組んでいきたい。 化学(スポ科)では、少数で行うことのメリットは多いが、さらなる授業の質の向上を目指していきたい。 生物では、人数が少ないこともあり、生徒と活発な対話を行ったことが奏功したと考えられる。今後も生徒の思考する機会を増やし、意欲的に取り組める授業を心がけていきたい。
保健体育	集計分析	体育においては、多くの項目において80%以上の生徒が肯定的回答をしており、高い満足度を得ていることがわかる。1学期の自粛期間明けの授業では身体接触を避ける等の理由で種目の変更や多くの制限があったが、2学期では感染予防対策をした中で仲間とコミュニケーションを取りながら体を動かすことができていた。積極的に準備・片づけを行い、全体的に取り組み状況が良好だったように思う。引き続き、生徒の発達段階に合わせたきめ細かい指導を行いたい。
	授業改善	自分が学びたい球技種目を選択する授業であるため、多数の生徒が積極的、かつ前向きに取り組んでいる。しかし、現状に甘んじることなく、生徒のニーズに応えつつ、よりわかりやすい授業にしていきたい。また、アンケート結果の中で「予習・復習をしている」の肯定的回答率が他に比べ低いことが分かった。その場の授業が楽しいことは大切な事であるが、生活の質を高めるために継続的に運動を行えるように、健康の保持増進や生涯スポーツという観点から、授業以外でも運動に取り組むような働きかけを積極的に行っていきたい。
英語	集計分析	どの科目でも概ね70%以上の肯定的回答を得た。 コミュニケーション英語Ⅲでは、特に「意欲的な取り組み」で肯定的回答を多く得た。進路決定も目前に迫り、これまで以上に授業に集中して取り組むことができていた。また、「他者の考えを知る機会」でも肯定的回答を多く得た。自分の考えと他者の考えを比べることでより自分の考えを深めることができていたと分析できる。 英語表現Ⅱでは、「取り組みやすく理解度に合わせた授業」で肯定的回答を多く得た。生徒のレベルにあった授業ができていると考えられる。また、「他者の考えを知る機会」でも肯定的な回答が80%を超えている。 発展英文読解では、「自分の考えを深めることができた」で肯定的回答を多く得た。これまで学習してきた知識に加え新たな知識を関連付けて学ぶことができていたと考えられる。
	授業改善	どの科目でも、「予習・復習をしている」で否定的回答が多かった。各授業の目標を明確にしたり、プリントなどの教材を工夫したりする等の改善をし、家庭での学習習慣が身につくよう働きかけていきたい。また、単元の始めに今後授業で扱う内容をあらかじめ周知することで興味を持たせたり、定期的に小テストを実施することで、生徒が予習に取り組むよう工夫していきたい。
社会と情報	集計分析	「授業のあり方について」では、概ね70%の生徒から肯定的な回答が得られた。
	授業改善	「理解度に合わせた授業」の質問に対する肯定的な回答は65%程度で他の項目と比較すると低かった。生徒が課題に取り組み、完成するまでの時間には個人差があり、ペース配分やリズムなど、より丁寧な授業を心がけていく必要がある。